

熱中症等の事故・ヒヤリハット事例

農業は1人作業が多く、熱中症になった際に自分では症状を自覚しにくいことから、熱中症が重篤化しやすい傾向にあります。また、高温の日は疲れ等により、高所から転落する等の事故が起きやすいので注意が必要です。

夏の農作業中の死亡事故事例

- 5月 ビニールハウス内で作業中、熱中症で死亡（60代男性）**
 ビニールハウス内でマルチはり中、心肺停止の状態で見えられ、病院に搬送後、死亡。
 農業経験50年のベテランだった。
- 7月 水田畦畔での草刈り作業中、熱中症で死亡（70代男性）**
 朝から水田畦畔の草刈り中、意識不明の状態で見えられ、病院に搬送後、死亡。刈払機は手元になく、具合が悪くなり意識を失ったものと推定。当日の気温は34.4度だった。
- 8月 高所からの転落による死亡（70代男性）**
 畑で木の枝切り中に梯子から転落し地面へ落下。同僚が救急を呼び救命センターへ搬送。
 心停止より一時的に心拍再開するも死亡。当日は当地域に熱中症警戒アラートが発表されていた。



改善策

気温が低くても、気流の少ないハウス内は、高温・高湿度となりやすい。暑さに慣れていない時期にハウス内での作業はリスクが高いので、しっかりと暑さ対策をしましょう。



夏季の草刈り作業は労働負荷が高く、事故も多発しています！
 直射日光を避ける帽子等の熱中症対策アイテムを活用し、単独作業を避け、こまめに休憩を取りましょう。



夏季の高所作業も多発しています！
 暑熱環境の作業をする際は、熱中症以外の農作業事故にも熱中症対策を行いつつ、作業に一層の注意を払いましょう。

夏の農作業中の体温の変化

もう少しと思い、急昇する体温（70代男性）
 コンバインを使って稲刈り中、13時頃まで作業を続けた。体温が急激に増大し、危険な状態となったが、体温上昇を知らせる警報に気付かなかった。その結果、体温がさらに危険なレベルまで上昇し、夜まで下がらなかつた。

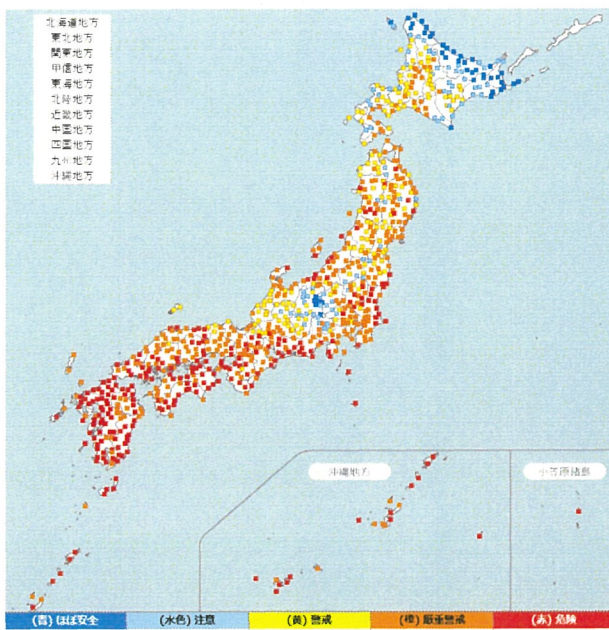


熱を放散しにくい作業服で連続した長時間作業は熱中症のリスクを高める要因になります。こまめな休憩や水分・塩分補給を行いましょう

令和6年度農林水産省補助事業の熱中症対策モニター調査報告(カナリアによる深部体温計測)より引用

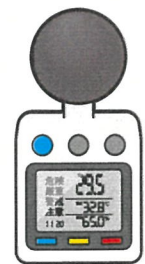
暑さ指数を調べて、明日の農作業計画を考えよう

暑さ指数(WBGT)とは、熱中症リスクを判断するため、気温・湿度・輻射熱(日差し・照り返し)の3要素を組み合わせて計算された指標です。暑さ指数が高ければ高いほど、熱中症になりやすくなります。



暑さ指数は環境省HPで調べることができます。暑さ指数が33に達すると、熱中症警戒アラートが発表されます。

黒球付の暑さ指数計があれば、身近な場所の暑さ指数を自分で測ることもできます。



環境省「熱中症予防情報サイト」

お住まいの地域の暑さ指数はこちらから確認できます！



http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php

お住まいの地域の暑さ指数を毎朝メールでお届けすることもできます！



http://www.wbgt.env.go.jp/mail_service.php